

This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

**As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Image Problem Mailbox.**

⑫ 実用新案公報(Y2)

平3-31721

⑪ Int. Cl.³

B 65 D 25/04

識別記号

E
G

庁内整理番号

6540-3E
6540-3E

⑭ 公告 平成3年(1991)7月5日

(全4頁)

⑮ 考案の名称 区画収納容器

⑯ 実 願 昭61-180799

⑰ 公 開 昭63-86034

⑱ 出 願 昭61(1986)11月25日

⑲ 昭63(1988)6月4日

⑳ 考 案 者 金 井 忠 大阪府八尾市南久宝寺町3丁目36番地
 ㉑ 考 案 者 唐 金 昭 次 郎 大阪府大阪市城東区東中浜3丁目18番8号
 ㉒ 出 願 人 株式会社リングスター 大阪府大阪市城東区東中浜3丁目18番8号
 ㉓ 復 代 理 人 弁理士 藤 田 時 彦 外1名
 審 査 官 新 海 栄

1

2

㉔ 実用新案登録請求の範囲

上面開放の方形皿状容器に設けた平行側壁の対向面に夫々凸条部を設け、該凸条部に複数の縦溝を夫々対向するように設け、この対向縦溝に両側辺を嵌入するプラスチック製仕切板の両面に凸条部の下側部に係合する突起を設けたことを特徴とする区画収納容器。

㉕ 考案の詳細な説明

「産業上の利用分野」

この考案は機械、電気機器等の各種部品を種別に分類収納するための区画収納容器の仕切板の脱出防止のための構造に関するものである。

「従来の技術」

機械部品、電気部品等を種別に分類収納するため皿状容器内を多数の区画室に分割した区画収納容器は通常用いられているものである。而して、皿状容器内を多数の区画室に分割するための仕切板が着脱不能に固定されたままでは、収納する部品の大きさの大小に適応できないため、仕切板を着脱自在と為し、区画室の大きさを適宜変更できるように為したものが通常であつた。

「考案が解決しようとする問題点」

しかしながら、従来の着脱自在の仕切板は単なる平板状のものであつて、これを装着したときに極めて緩く保持されるのみであるから、持ち運び運搬等の際に受ける振動にて容易にずれ動き、また浮き上がるため、せつかく分類収納した各種部

品が交り合うことが多く、収納部品にて修理作業等を行うときに必要部品を改めて選り分ける作業を要し、作業の円滑な進展を著しく妨げる原因となっているものである。

5 「問題点を解決するための手段」

本考案は仕切板の着脱が自在な区画収納容器において、仕切板を装着した状態を安定に固定できるように為すことにより、上記従来品の欠点を除去しようとするものであつて、上面開放の方形皿状容器に設けた平行側壁の対向面に夫々凸条部を設け、該凸条部に複数の縦溝を夫々対向するように設け、この対向縦溝に両側辺を嵌入するプラスチック製仕切板の両面に、これを対向縦溝に嵌入せしめたときに前記凸条部の下側部に係合する突起を設けることによりその目的を達成しようとするものである。

「作用」

本考案の区画収納容器の仕切板の装着にあつては、その仕切板の両側辺を対向する凸条部の対向縦溝に嵌入し、その突起が突条部に接した時点より更にこれを下方に圧入すれば、その材質の弾性にてやや撓んで突起が後方に後退し、凸条部を乗り越えて下降するから、更に仕切板の下端が容器底板に接するまで下降せしめれば、突起と凸条部の密着状態が解かれ、突起は材質の弾性にてもとの状態に復帰し、以後は第2図に示す如く、突起が凸条部の下側部に係合し、仕切板下端が容

器底板に接着した状態にて脱出不能に保持されるものである。また、前記と逆に仕切板を取外したいときには、これを撓めるように上方に強く引張れば、突起部分が材質の弾性にてやや撓んで凸条部下側部との係合を解くから、更に上方に引張り続けられ、突起は凸条部を乗り越え、凸条部上縁に達した時点にて材質の弾性にてもとの状態に復帰し、以後は容易にこれを取外すことができるものである。

「実施例」

図面に示す実施例に基いて本考案を詳述すれば、薄鉄板製にて上面開放の方形皿状容器 1 に設けた平行側壁 2、2 の対向面に夫々凸条部 3、3 を設け、該凸条部に複数の縦溝 4 を夫々対向するように設け、この対向縦溝に両側辺を嵌入するプラスチック製仕切板 5 の両面に突起 6 を設けて成るものである。なお、仕切板 5 の突起 6 の上方にはこれに連続する案内突条 7 を設けておけば、仕切板の着脱の際のガイドとなる外、仕切板自体の補強にも役立つものであり、また該案内突条 7 及び突起 6 に沿わせてスリット 8 を設けておけば、仕切板 5 の着脱に際し突起 6 が凸条部 3 の表面上を通過するとき、突起 6 が内方に後退しやすくなるため、仕切板 5 の着脱が極めて容易になる利便がある。なお、第 9 図は工具箱に本考案を適用した一例を示すものであり、工具箱本体 10 とこれに開閉自在に蝶着する蓋板 11 の間において、リンク機構を介して両者に開閉自在に連結された中皿 12、12 において本考案を適用したものであ

る。

「考案の効果」

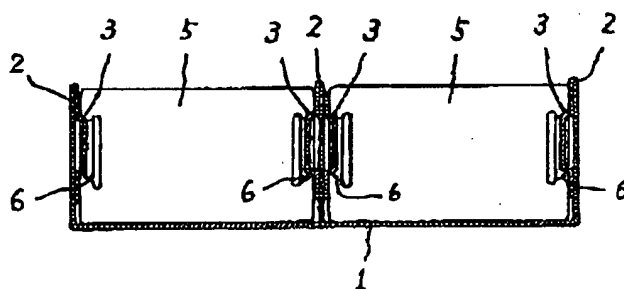
本考案の区画収納容器における仕切板の脱出防止装置においては、収納容器内を多数の区画室に区画する着脱自在の仕切板を装着した際に、これの下端が容器底板に接着した状態にて脱出不能に強固に保持され、持ち運び、運搬等の際の振動を受けても仕切板が容易に動くことがなくなるから、あらかじめ各区画室に分類収納しておいた各種部品が不用意に交り合うことがなくなるものであり、作業の際に必要な部品を的確に取出せるから作業能率を低下せしめる要因を除去できるものである。また、収納部品の数量が一目で識別できるようになるから、補充が容易になり、補充もれによる作業時の不足の事態を事前に防止できる等の効果を有するものである。

図面の簡単な説明

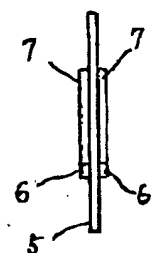
第 1 図は本考案の一実施例を示す斜視図、第 2 図は第 1 図 A-A 縦断面図、第 3 図は仕切板の一実施例を示す正面図、第 4 図は第 3 図 B-B 横断面図、第 5 図は同左側面図、第 6 図は仕切板の他の実施例を示す正面図、第 7 図は同平面図、第 8 図は同左側面図、第 9 図は本考案を工具箱に適用した一例を示す斜視図である。

1……方形皿状容器、2、2……平行側壁、3、3……凸条部、4……縦溝、5……プラスチック製仕切板、6……突起、7……案内突条、8……スリット、10……工具箱本体、11……蓋板、12、12……中皿。

第 2 図



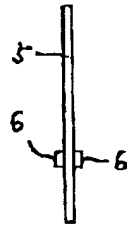
第 5 図



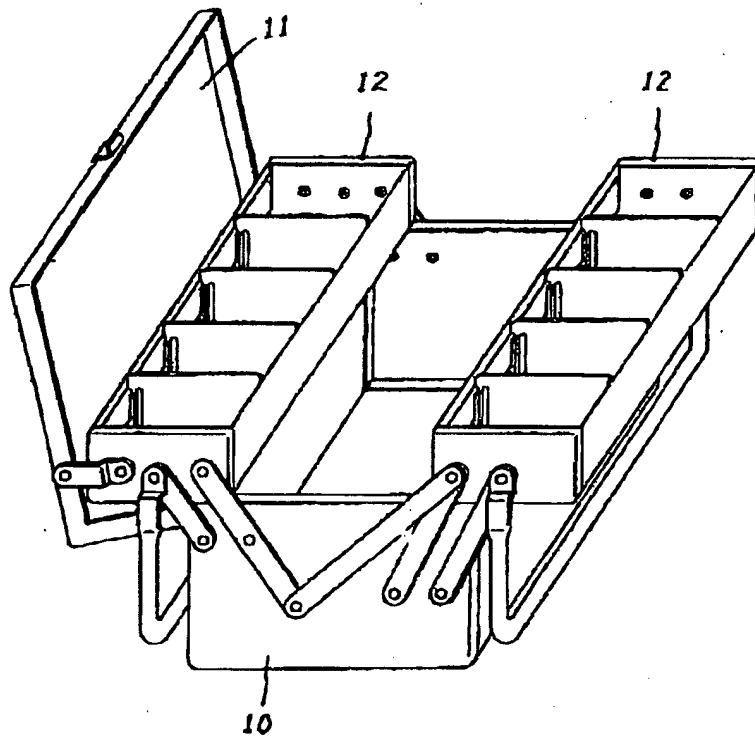
(4)

実公 平 3-31721

第 8 図



第 9 図





Creation date: 01-05-2004
Indexing Officer: TGEDAMU - TARIQUA GEDAMU
Team: OIPEScanning
Dossier: 10611706

Legal Date: 12-08-2003

No.	Doccode	Number of pages
1	IDS	2
2	FOR	8

Total number of pages: 10

Remarks:

Order of re-scan issued on